

門型ファイバーレーザー

フジクラ製12KW発振器を追加

小池酸素工業

溶断機メーカー大手の小池酸素工業は、ファイバーレーザー切断機の発振器に、新たにフジクラ製の出力12KW「KF12000-DBC」をラインアップに加え、受注活動を開始した。フジクラ製は既存の8KWに合わせて2種類を用意。顧客要望の強かった「純国産発振器での高出力化」に応えた格好だ。12KW発振器はこれまで米IPG社製を採用。今後は顧客の希望にあわせて選択できる態勢とする。

日本製と海外製による発振器の性能・品質の違いは無いが、急な故障やトラブルといった万一の際のメンテナンスやアフターフォローのレスポンスが速いなどサービス対応面では純国産のほつが優位な点もあり、顧客の評価や期待度も高い。

こうした市場ニーズを踏まえ、小池酸素工業ではフジクラ製8KW発振器（KF1800

00DBC）を採用した。門型ファイバーレーザービームをさまざまな形状に変える

小池酸素工業独自のDBC（デュアルビームコントロール）技術を活用し、軟鋼SS材の28ミリ厚や国内高炉製の建築構造用規格厚板「SN490C材」の25ミリ厚の高品質切断のほか、オリジナルの切断技術で橋梁用塗装厚板（シンクリッチプライマ材）を、塗装部分の剥離（先行焼き）

無しで高速・高精度切断を実現済み。今回の追加で、同社の門型ファイバーレーザー「FIBERTEX Zeroシリーズ」の発振器ラインアップは①フジクラ製8KW類となった。②フジクラ製12KW③IPG製12KW④IPG製18KWの4種類となった。



フジクラ製「KF-12000DBC」
④、門型ファイバーレーザー「FIBERTEX-Zeroシリーズ」

